

佐賀新聞社主催の佐賀西部政経セミナーと唐津政経懇話会(6月27、28日)で、三菱総合研究所主席研究員の松田智生氏が「海外と国内のアクティビティニアに学ぶ地方創生」をテーマに講演した。元気なシニア(アクティビティニア)が秘める地方創生の可能性について、国内外の事例や試算を交えて紹介した講演要旨をまとめた。(志賀直哉)

日本の中高齢化率は26%で世界トップだが、昔からは考えられない

海外と国内のアクティビティニアに学ぶ地方創生

三菱総合研究所主席研究員 松田 智生 氏



研究員の松田智生氏による講演の写真

護が必要になつても家賃が変わらないのがポイント。多くの預貯金を残して亡くなるシニアが多いのは将来の不安からだ。要介護になると家賃が変わらなければ

対し従業員が約300人。予防医療、健康支援、食事、健康ピックアップ分析など、介護分野以外も多様で、従業員や地元学生への奨学制度もあり、学生の流出を防いでいる。地方創生は雇用に尽きる。(い)ではシニアは「支えられる側」ではなく、「支える側」だ。日本にもCCRCの先進地がある。大学生も入居する実例で

本版CCRCは、三養基郡基山村やみやき町を含む約230の自治体が推進の意図だ。米国・ニューハンプシャー州のCCRCは、居住者約400人に

くらいうるアクティビティニアが増えた。10万時間ともいわれるリタイア後の自由時間の過ごしが極めて大事だ。年間医療費40兆円、介護給付費10兆円に対し、税収は55兆

円。税収は限られるのに医療費が増えている。佐賀も同じだと想つ。米国は、健康時から介護時まで継続的なケアを保証する高齢者共同体(CCRC)の先進地だ。介

れば消費に回す。介護でもうけるのではなく、介護にさせないことでもうけた発想だ。

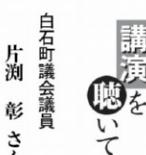
フランスでは独居老人と学生の同居政策が始まっている。学生が同居のシニアと週6回一緒に夕食を取れば家賃はだだだ。見守りコストも減りオールドタウン化も防げる。高齢者、学生、地域の「三方一両得」だ。

日本にもCCRCの先進地がある。大学生も入居する実例で、その有り余る時間とパワーを佐賀のために使い、一年賃状に書き下さる。「きょううす」と「きょううく」つまり「きょう用」があり、「きょうう所」があるのがアクティビティニアだ。

都会に住し私大に再就職した男性がいる。「きょううす」と「きょううく」のハコモドキなどが持つてこいだ。CCRCなどは持つてこいだ。ただ、その形でもいい。ただし、地域で最も大きくて経営体力

は元ホテル経理部長をシェフに呼んで、学生たちに現代の知識や

シニアが地域を「支える側」に



白石町議会議員
片瀬 彰さん

講演を聞いて

本版CCRCは、三養基郡基山村やみやき町を含む約230の自治体が推進の意図だ。米国・ニューハンプシャー州のCCRCは、居住者約400人に

CCRCが利用できるようにすれば、地域包括ケアのモデルにもな

る。

本版CCRCは、三養基郡基山村やみやき町を含む約230の自治体が推進の意図だ。米国・ニューハンプシャー州のCCRCは、居住者約400人に

CCRCが利用できるようにすれば、地域包括ケアのモデルにもな